

このページは読み上げ機能に一部対応していない場合があります。
ご不明な点につきましては、直接学校までお問い合わせください。

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

千葉県八千代市		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
八千代市立南高津小学校	八千代市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表	学校関係者評価結果の公表
八千代市立南高津小学校	https://www.yachiyo.ed.jp/enantaka/gaiyo/hyouka/	

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

これからの時代において必須となるグローバルな視野を持った人材を育成するため、ESD教育を推進する。その際、SDGsの17の目標を教育活動に組み入れ教育課程を編成していく。

そのため、第1学年は、国語11時間、生活科10時間、音楽13時間を「言語活動科」に充てる。第2学年は、国語10時間、生活科10時間、音楽15時間を「言語活動科」に充てる。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本校は、創立48年目を迎え、公団アパートおよび住宅地の東洋会、ローズタウンを学区とする児童数254名、11学級の小学校である。

児童が「生きる力」を身に付け、これからのグローバルな社会を生き抜いていくためには、高いコミュニケーション能力や異文化理解能力が求められる。このような状況を踏まえると、「言語活動科」を第1学年から実施し、コミュニケーションや異文化への児童の興味・関心、能力を高めていくことが求められていると捉えている。このことは本校の教育において重点としている「学び合う教室の創造」のために大変効果的であると考えられる。

また、本市はアメリカ合衆国タイラー市と姉妹都市であり、タイ国首都バンコクとは子ども親善大使を相互派遣している。外国語活動（言語活動科）の充実を図ることは、地域や学校の特色を生かして、さまざまな面から児童の能力を高めることにつながり、「生きる力」の育成につながると考えられる。

(3) 特例の適用開始日

平成24年4月1日

平成30年4月1日変更

令和3年4月1日変更

令和5年4月1日変更

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特記事項なし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・実施している
- ・実施していない

<特記事項>

学校ホームページ、学校だより、学級懇談会、学校評議員会などを利用して、保護者及び地域住民へ取組の状況を発信している。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校では、「未来を拓く、たくましく、心豊かな子どもの育成 ～瞳輝く、みんな笑顔の学校～」を学校目標として、目指す子供の姿として「物事に主体的に取り組み、仲間と共に課題を解決していく資質・能力を身に付けた子」と位置づけている。国語科を要として、教育活動全体を通して、わかりやすく相手に伝える力を育成し、外国語(言語活動科)活動の充実を図っている。学校生活に関するアンケートでは「言語活動科」「外国語(英語)活動」「外国語」の学習が楽しみだ、と86%の児童が答えた。また外国人による発音を聞いたり、映像を見たりできたことで、児童の世界の文化に対する関心・意欲が高まった。継続した活動の結果、言語や文化の異なる人と協働できる児童の育成につながっている。今後は、ICT機器の積極的な活用や専門性を高めるための研修会のさらなる充実が望まれる。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

- ・ 外国語を用いて、コミュニケーションを図る楽しさを体験できるようにした。
- ・ 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付けるようにした。
- ・ 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることを知ることができた。
- ・ 第1・2学年の「言語活動科」、第3・4学年の「外国語活動」では、外国語の歌を動作化しながら歌ったり、様々なゲームを行ったりすることにより、外国語を身近に感じ、表現することへの楽しさを感じ取れるようにした。
- ・ 第3・4学年では、総合的な学習の時間で扱う国際理解教育は、外国語活動での世界の食文化や世界の国旗紹介などに関連付けて指導した。

5. 課題の改善のための取組の方向性

- ・ 「言語活動科」「外国語（英語）活動」「外国語」等国際理解教育の日々の実践を、保護者や地域の方々へ向けて公開する機会を設け、現状を的確に把握してもらう。
- ・ 外国語活動助手と担任とが打合せをする時間の確保。
- ・ SDGsの17の目標を教育活動に組み入れた教育課程を編成し、ESD教育を推進する。